

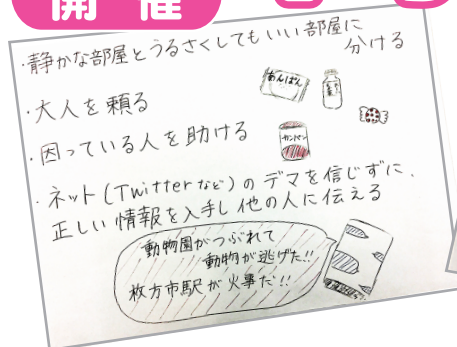


ひらんぽ



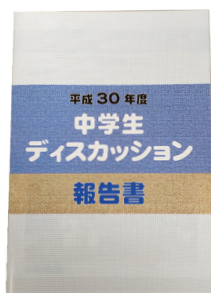
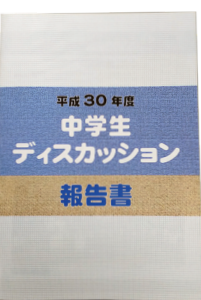
2/2
(土)
開催

中学生 ティスカッション



平成30年度第2回「中学生ディスカッション」が枚方市市民会館で開催。枚方市内7校から、34人の中学生が集まりました。半数以上が、前回から引き続き参加という熱心さ。前回話し合った「枚方で災害が起こった時に、中学生ができること」をベースに、「もしもの時に実践できるために日頃からどんなことをすればよいのか」についてディスカッションしました。地域の人とコミュニケーションをとること、ハザードマップの作成、実用的な避難訓練の提案など、具体的で実践的な意見が数多く出されました。

参加した中学生が、今後自ら行動し、学校や地域で活躍することを期待したいと思います。





(文・高橋 佳子)

「チーム・アイ・ジャパン」の防災士。腹話術のアイちゃんと共に、シエイクアウト訓練といった地震訓練を実施。続いて「ひらかた市民活動支援センター」の高齢者・災害弱者のための防災セミナー。防災クイズでは、『地震は、まず火を消すよりテールの下へ』という説明。今ではガスも自動で消えるからです。6月の地震後に開設された災害ボランティアセンターについては、「枚方市社会福祉協議会」から報告。41日間、のべ864人のボランティアの活躍があったとか。その他「DroneAI技術研究機構」による災害時のドローンの活用についての話や、「京阪総合カウンスリング」による災害後の心のケアの講演もありました。

市民会館大ホールの地下にある小ホールで、「みんなの防災セミナー」が開かれました。まず「リヴ・エナジー」の子育てママのための防災セミナー。子育て中の保育士さんのグループで、熊本にも支援に行った経験から、赤ちゃん用持ち出しリュックや、子どもを安心させるふれあい遊び、日ごろから地域につながる作っておく必要性などが話され、赤ちゃん連れの方々も納得。



次回「ひらかた防災学校」は、2019年6月16日(日)に開催！
@枚方市市民会館大ホールロビー・小ホール・本館1階ほか

防災小学校の実施に参加している団体からも新しく防災ゲームの提案があり、プログラムも少しずつブラッシュアップしています。防災小学校の依頼は、開催予定の2ヶ月前に、ご相談ください。その他、各種相談もお伺いします。

★防災小学校のお問合せは・・・

ひらかた市民活動支援センター 担当:重村
TEL:072-805-3537/FAX:072-805-3532
Eメール:info@hirakatanpo-c.net
http://hirakatanpo-c.net



2/2 (土) 開催 2018年度ひらかた防災学校



毎回人気のスタンプラリー！
オリジナルのスタンプが素敵で
持ち帰った人も！？
アンケートも、たくさん記入
していただきました！



2月の寒い時期ではありませんでしたが、会場の市民会館大ホールロビーでは、多くの来場者でにぎわっていました。今回は、昨年、枚方市内で地震と台風の被害を受けたこともあり、お馴染みの防災クイズや防災ゲーム、AED体験をしながら、熱心に質問したり、相談をしている方も多かったです。屋外の会場では、災害時に活躍する消防車や給水車など、働く車に子どもたちも大興奮。被災状況を確認するために役立つドローンの展示と飛行も行われ、最新の防災情報が盛りだくさんでした。

また、会場内ではスタンプラリーが行われ、来場者は、各ブースオリジナルのスタンプを集めて、非常食や防災グッズをゲット。温かい食べ物などをいただきながら「自助」「共助」について学ぶ一日となりました。

毎回の人気スタンプラリー！オリジナルのスタンプが素敵で持ち帰った人も！？アンケートも、たくさん記入していただきました！

16 みんなの災害体験
～強いて次世代に伝えよう～

そこで、枚方市や大阪府下の実際の被災写真を展示し、災害体験を語り合う「みんなの防災ディスカッション」を行いました。その中で、枚方市や大阪府下の実際の被災写真を展示し、災害体験を語り合う「みんなの防災ディスカッション」を行いました。その中で、枚方市や大阪府下の実際の被災写真を展示し、災害体験を語り合う「みんなの防災ディスカッション」を行いました。



集 ひらかたのまちづくり

2018年、枚方市は、大阪北部地震や台風21号など、さまざまな災害に見舞われました。そんな中、災害に備えて枚方市内で行われている「防災イベント」や、毎月開催されている「五六市」を通して、枚方市のまちづくりについて考えてみました。

公助を知って自助を備える ひらかた防災学校

年に一回開催されている「ひらかた防災学校」では、NPOや市民活動団体や、市役所、消防関係の方が災害に対する取り組みについて出展していました。

市民のボランティアで構成されている消防団は、「AEDや応急手当の方法」、枚方スカウト協議会は、「災害現場に必要な急造タンクの作り方」、枚方市危機管理室は、「防災クイズ」など、災害現場に必要な知識や対応を学ぶことができるブースが多かったです。



このような防災イベントを開催することで、市民の方に防災への意識を高めてもらうだけではなく、市役所や消防など、公的な機関が災害に対して、どのような活動ができるのか、どのように準備しているのかを、市民が見ることができ、貴重な機会

だと思いました。また、公助を知ることで、自分たちの防災を見直すきっかけにもなると思いました。

オール枚方で災害に取り組み 自主防災訓練

枚方市内の小学校で行われた自主防災訓練では、災害後に必要な救助法や消火活動などを消防の方に教えてもらいながら、実際の災害を想定した訓練を行いました。

特に印象に残っていることは消火訓練です。当日は消防団が放水訓練を披露し、参加した人たちの目を引いていました。また、家屋の下敷きになった際の救助法やAEDの使い方について、実際の様子を見たり、体験しながら訓練を行っていました。どれも貴重で大事な訓練なので、もっと多くの方が参加するのではないかと思います。

各地域で行われている自主防災訓練ですが、枚方市長が開会のあいさつを行い、消防署の方が講評するなど、枚方市が一丸となって災害に立ち向かい、取り組んでいる姿勢が伝わってきました。



毎月第2日曜に、枚方市駅から枚方公園駅の間を結ぶ京街道で開催されている「五六市」。ここでは多種多様なお店が出され、盛り上がりを見せています。主に手作りの衣料雑貨の店や、地元のお店が普段食べることができないスペシャルなメニューを提供しています。

会場は、江戸時代に、京街道で料理旅館をしていた「鍵屋」を中心に風情のある建物が残っており、まちぶらには最適です。買い物を楽しんでも、子どもから年配の方まで、幅広い年齢の方が楽しめるようになっていて、当日も家族連れでいっぱいでした。私は、枚方市で有名な「くらわんか餅」を食べましたが、このイベントで、いろんな枚方名物や、枚方の歴史を知ることができました。



枚方では、行政だけでなく、市民も一緒にイベントやまちづくりに取り組んでいるところが随所に見受けられ、大変興味深く、魅力的でした。

(立命館大学3年生・川口 翔平)

老若男女が楽しめるまちぶら 枚方宿くらわんか 五六市

少子高齢化、核家族、インターネットの普及により、子育ての環境は年々変化しています。そこで、「多様化する社会に適応した子どもを育てるということ」、「子どもの居場所づくり」に焦点を当てて取材をしました。

国際化の本来の意味と子育て Hipproファミリークラブ しえろんファミリー



「Hipproファミリークラブ」は、言葉を自然習得するということを目的に、世界21か国もの言語や、文化に触れる活動を行っています。

私が体験取材をした時は、スペインやロシアのリズム遊びをしたり、留学に行った学生の話や聞き取りました。マレーシアに留学していたという学生からは、イスラム教の文化や食べ物についてのお話を聞きました。イスラム教が教科書でしか学んだことがなかったため、新鮮で興味深かったです。

一番驚いたことは小学校低学年以下の子どもたちが聞いたこともない言葉で自己紹介をしていたことです。この子たちは、きつと自分と違う文化や価値観をもった人と出会



っても、理解し、受け入れることができるんだらうなと感じました。

近年はオリンピックの影響により、グローバル化やダイバーシティなどの言葉がよく聞きます。今子育てになるのではないかと感じました。



回、活動をしてみて、子どもたちに、一つの言語を完璧に習得させるよりも、世界の言葉や文化に触れる機会がある方が、グローバル化、ダイバーシティにつながる子育てになるのではないかと感じました。

子どもの居場所づくり 子ども食堂すがらひがし

枚方市内では、子ども食堂の数が年々増加しており、そのほとんどが夜ご飯を提供している中、「子ども食堂すがらひがし」では、朝ごはんの提供をしています。



始めた理由として、この地域のいきいき広場「てらこや悠遊」へ行く子どもたちが、朝食を食べずに行っているということがきつかけだそうです。私が訪ねた時も、兄弟と一緒に来たり、たくさんの子どもたちが集まっていた。食事後は、友だちとしゃべったり、一緒にゲームしたりして過ごし、食べるだけでなく、すっかり子どもたちの



このページは、
学生インターン研修活動の
一環で作成しました。
関連は7ページへ



居場所となっています。「てらこや」までは、近所の大学生が送り、時には、施設のスタッフが子どもたちの相談にのったりすることもあったそうです。

実際に、子どもたちと同じものを食べてみましたが、栄養面が考えられている上に、とてもボリュームで、おなかいっぱいになりました。子どもたちには、親だけではなく、こういった周りの大人たちの愛情も必要なのだと感じました。

(立命館大学2年生・藤井 優海)



ひらかたの子育て環境 特

市民活動のための

紙面づくり講座

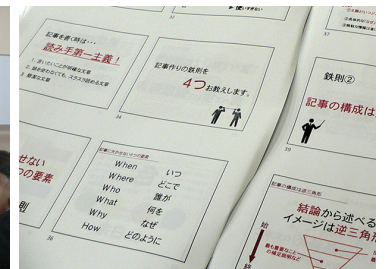
2/21・28
各(木)
開催



サプリ村野学校の「市民活動のための紙面づくり講座」を受講しました。2週に分けて行われた本講座。講師は、枚方市役所広報課の森健一さんです。

1回目の「読み手に伝わる言葉の選択、文章の作り方」では、5W1Hの基本から、まず何を読者に伝えたいか、キーワードを前面に、といったように、わかりやすく説明してもらいました。ボランティア団体の会報を編集している私には、とても参考になりました。

2回目の「紙面で伝わる写真の撮り方、画像の入れ方」では、実際に写真を撮って比較をしたり、この



「ひらんぼ」の写真の構図や配置、文章の流れなどを、各ページごとに説明してもらい、非常にわかりやすかったです。

参加者には、実際に編集作業をされている方も多く、講座のあとは、熱心に具体的な質問されていました。まだまだ知りたいことが多く、次はカメラの使い方や、編集ソフトの使い方などの講座をしてほしいという声もありました。これからも広報の講座を続けてほしいです。

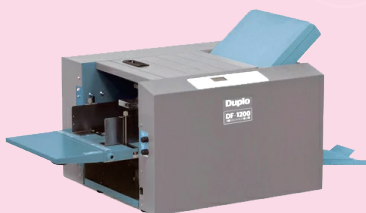
(文・向井 範雄／写真・重村 雅世)

サプリ村野学校

紙折り機の利用場所が変更しました

サプリ村野の301号室で利用していただいていた「紙折り機」の利用場所が変更されています。報告書や総会の資料、または団体の機関紙や冊子のための二つ折り、封入のための三つ折りなど、多様な折り方ができます。

当センターの登録団体および市民活動、ボランティア活動をしている団体で、ご利用希望の皆様は、ひらかた市民活動支援センターまで、お越しください。



今年度のサプリ村野学校は、36講座を開催し、のべ約600人を越える参加がありました。

ひらかた市民活動支援センターとしては、「NPO基礎講座」を始め、「学んで終わりにさせないファンドレイジング講座」や相談会、「伝わるチラシ作り入門」「紙面づくり講座」など、団体の立ち上げから、団体運営に関する講座を開催しました。

次年度は、サプリ村野を拠点として活動できる団体を増やしていけるような方向で運営していきたいと思っています。サプリ村野学校の情報は、当センターホームページか、毎月の広報ひらかたをご覧ください。



NPO基礎講座



伝わるチラシ作り入門



学んで終わりにさせない
ファンドレイジング講座

Instagram インスタグラム



はじめました！



ひらかた市民活動支援センターでは、TwitterとFacebookに引き続き、Instagram(インスタグラム)の公式サイトを開設しました。

2月から研修に来ていた、学生インターンを中心に投稿していましたが、今後は、当センター職員やボランティアからの投稿も予定しています。

下記のページからアクセスし、ぜひ「フォロー」&「いいね♡」をお願いします。



ひらかた市民活動支援センター公式インスタ
@hiracen_info
https://www.instagram.com/hiracen_info/

Facebook、Twitterも、Instagramに連動して、更新していきます。引き続きよろしくお願いします。



特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センター
@hiracen
<https://www.facebook.com/hiracen/>



ひらせん(ひらかた市民活動支援センター)
@hiracen_info
https://twitter.com/hiracen_info



インターン 振り返り



川口 翔平
(立命館大学3年生)

私がこのインターンに参加した理由は、地域のコミュニティに参加することで、日常では見られない地域社会の現状をみて、何が必要とされているのかを知りたいと思ったからです。いろいろな地域や、NPOの活動に参加させていただいて、防災に対しての考え方や、これから何を学んでいくべきかを考え直す機会になりました。



藤井 優海
(立命館大学2年生)

私はインターン研修に参加するまで、自己表現ができる職業にしか興味がありませんでした。しかし、さまざまな団体の活動などを取材してみても、自分や家族以外の知らない人たちのための活動の大切さを知りました。また、伝えることの難しさと、やりがいも学びました。将来、人のために仕事を見つけていきたいと思っています。



ひらかたNPOフェスタ2019 開催!

2019年9月8日(日) ニッペパーク岡東中央・枚方市市民会館ほか

特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センターに登録している団体が、発表・展示・バザー・体験などを通じて、普段の活動を紹介し、学校や行政、企業や商店、地域の皆さんと交流する、年に一度のイベントです。

2018年度活躍のボランティアスタッフ

ひらかたNPOフェスタや、ひらかた防災学校、留守家庭児童会室市民参画事業、広報紙発送作業など、さまざまな事業を支えていただき、ありがとうございました。2019年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

大江真奈美、岡田慎平、岡谷幸子、小田にしを
川上一富貴、川越あゆみ、川越沙優、久保田亮
桑野花菜、熊澤力、斉藤操、酒井惇子、澤口伸男
澤口美津子、節句田ナティ、高嶋剛三郎、高橋佳子
塚本リエ、中島一恵、中島重忠、西脇嘉子、原田啓二
本間和代、日高幸治、藤原いずみ、宮岡眞紀
宮崎絵美子、宮崎ひとみ、宮富静子、宮富信明
向井範雄、吉田正男、鷲山秀子 (50音順・敬称略)



【編集・発行】

特定非営利活動法人 ひらかた市民活動支援センター
〒573-0042
大阪府枚方市村野西町5-1サプリ村野内
TEL: 072-805-3537 / FAX: 072-805-3532
Eメール: info@hirakatanpo-c.net
http://www.hirakatanpo-c.net/



ひらかた市民活動支援センター公式インスタ
@hiracen_info



特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センター
@hiracen



ひらせん(ひらかた市民活動支援センター)
@hiracen_info

イラストだより



モルジュはスイスのレマン湖のほとりにある小さな街です。ジャズフェスティバルで有名なモントルーへ行き、クイーンのフレディ・マーキュリーの像を見て、オリンピックの本部があるローザンヌを訪れ、宿泊していたジュネーブへの帰り道に、わざわざモルジュで途中下車したのは、そこがオードリー・ヘプバーンゆかりの地だったからです。ヘプバーンは63歳で亡くなるまで20年以上をモルジュの郊外で過ごしました。

墓参りをしようとして歩き始めたのですが、道に迷ってしまい、結局たどりつけませんでした。ケチらずにタクシーに乗ればよかったと後から悔やむことしきり。今までに何度、同じ過ちをおかしたことやら。チョコちゃんに叱られそうです。ちなみに、イラスト中央の女性はヘプバーンではありません、念のため。(笑)

(イラスト・文/向井 範雄)

編集後記

別れもあれば、出会いもある春です。17年前に当センターが設立した頃から付き合いのある団体が解散し、寂しい思いを感じています。平成から令和、時代は流れていきますね。。。

この春、小学3年生になったの男の子と一緒に、サプリ村野の一番桜を撮影しました。室外機の側で力強く咲いていました。

(編集者・S)

(撮影: 絹川 純清)

